

電力会社の重大事故シナリオでは、避難できず

5 km圏内住民

事故発生と同時に「避難の準備」

事故から 20 分後には避難中

30 km圏内住民

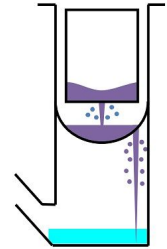
炉心溶融が始まって、
まだ「避難の準備」

0.5mSv/h の高い線量が確認
されてから避難

1月29日に22市民団体の主催で政府交渉を行いました。その後追加質問を出し、2月5日付で規制庁から回答がありました。回答の中から、重大事故シナリオ時の避難問題について紹介します。

関電等の電力会社は、重大事故シナリオとして、一次系配管破断・ECCS 注入失敗等を想定し、その場合に圧力容器に注水することなく、全ての燃料を炉心溶融させメルトスルーさせるシナリオを描き、それが現在審査中です。

この重大事故シナリオで、住民の避難はいつから開始するのか等について再質問しました。政府の回答からは、到底避難などできないことが明らかです。



関電資料 3-2 より
2013.10.1
溶融燃料は全て
落下させる

- P A Z (5 km圏内) の住民は、事故発生と同時に「避難の準備」、炉心溶融開始前＝事故発生から約 20 分後に「避難の実施中」となります。実際には、準備も実施も不可能です。
- U P Z (30 km圏内) の住民は、炉心溶融が始まって、まだ「避難の準備」。放射線量が 1 時間あたり 500 μSv (0.5mSv) になってはじめて、「数時間内に区域を特定し、避難を実施」。要支援者や避難道路が使えない地区の住民は「一時屋内退避」となっていますが、いつ避難できるかも分かりません。

◆質問 3 (2) 重大事故時の避難準備などの時間について (当日回答準備なしのため)

電力各社の重大事故シナリオでは、事故から約 20 分後には炉心溶融が始まり、事故から約 90 分後にはメルトスルーが始まるとなっている。

なお、電力会社は事故発生から状況把握に約 10 分かかるとしている。そうなれば炉心溶融開始まで 10 分しかない。29日は「10分での避難は困難」と述べられたが、質問への回答は準備できていないとのことだった。

具体的な避難の時期について、国の指針に基づけば、避難実施などはいつからになるか {下記の表に時間を記入で回答を}。

回答：

	避難の準備	避難の実施
P A Z (5 km圏内の住民)	施設敷地緊急事態に至った時点	全面緊急事態に至った時点
U P Z (30 km圏内の住民)	全面緊急事態に至った時点	施設の状況や緊急時モニタリングの結果を踏まえ実施を判断

※施設敷地緊急事態、全面緊急事態の判断基準については、原子力災害対策指針の原子力

災害事前対策の項 (P13-33)、UPZ の避難等の実施の判断基準については、P34 をご参照ください。

◆上記の回答を、電力会社シナリオで、原子力災害対策指針に当てはめると以下のようになる。

	避難の準備	避難の実施
PAZ (5 km圏内の住民)	①原子炉の運転中に非常用炉心冷却装置の作動を必要とする原子炉冷却材の漏えいが発生すること。 [指針 P15]	⑧炉心の損傷の発生を示す原子炉格納容器内の放射線量を検知すること。(引用者注：炉心溶融の発生はこれに該当) [指針 P17]
UPZ (30 km圏内の住民)	⑧炉心の損傷の発生を示す原子炉格納容器内の放射線量を検知すること。(引用者注：炉心溶融の発生はこれに該当) [指針 P17]	地上 1 m の空間線量率が 500 μ Sv/h に達した場合。 「数時間内を目途に区域を特定し、避難等を実施。(移動が困難な者の一時屋内退避を含む) [指針 P34]

原子力災害対策指針はこちら

http://www.nsr.go.jp/activity/bousai/data/130905_saitaishishin.pdf

2014. 2. 10

1月29日政府交渉連絡先団体

グリーン・アクション／美浜の会／原子力規制を監視する市民の会

美浜の会 大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル 3階 TEL:06-6367-6580 FAX:06-6367-6581

